

# いのちとせいかつをまもるかなもしうんどう

カナザワ フミカズ

かなもしうんどうのもくてきはなにか。それは、じむやきょういくのごりかであるといい、にほんごのこくさいかであるといい、にほんごのあいごであるという。じだいやひとによりきょうちようするところはことなるが、これらはいずれもまちがっていない。しかしながら、いまもっともちからをいれなければならぬのは、いま、げんにかな-がきをひつようとしているひとびとのためのかいかくではあるまいか。

よみかきのしょうがい(ディスレクシア)をもつひとびとがいる。にほんではしりょうがないが、すうパーセントのひとびとがそうであるとすいていするひともある。このしょうがいにもいろいろなタイプがあるが、かなのよみかきができるがかんじのよみかきがむずかしいというひとすくなくない。にほんではかんじがよめない、ちてきのうりよくにいじょうがなくともがくしゅうにさしつかえがでる。きょうかしよにかんじがつかわれているからである。こくごだけでなく、あらゆるきょうかのがくりよくをみにつけることがこんなんである。したがって、つけるしごとにかぎられてしまう。せいかつのもんだいにちよくせつつながる。

それだけではない。どうろひょうしきやあんぜんのためのちゅうい-がきなどがふりがななしでかいてあるとよむことができない。これはいのちにもかかわることである。じゅうだいなじんけんもんだいである。

だれもがよむべきぶんしょうは、できるかぎりかなでかく(それがむずかしいばあいにはかならずふりがなをふる)ようにかいかくしなければならぬ。このことがあまりにんしきされていないのは、けんじょうしゃのむかんしんのためであるが、にほんではかんじをしらないことははずかしいこととされていることから、しょうがいとうじしゃがこえをあげるのをためらっていることもあろう。とうじしゃのひとびとに、ぜひわたしたちとともにかいかくうんどうをすすめていくことをうったえたい。